



コンポジウム
で癒されタイ!

音文化へのいざない

タイ民族の音世界から手作り楽器の世界へ

日時：2016年1月31日（日）15:00～17:00

★その後、希望者には質問タイムやフリーなセッションの時間を設けます★

会場：安楽寺フリースペース 椀（もみじ） 京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町 21

参加費：安楽寺拝観料 500 円をいただきます + 珈琲販売あります

中国南部から東南アジア大陸部にかけての地域には、男女の掛け合い歌の文化や竹楽器の文化があり、様々な音の響きが自然とのハーモニーを形作ってきました。今回登場する話題提供者、対談者はそれぞれ演奏活動も行っており、こうしたタイやタイ民族の音文化をめぐって、楽器演奏の実演も交えて報告を行います。コンサート+シンポジウム=コンポジウムという形です。

シンポジスト：

馬場 雄司（京都文教大学総合社会学部教授）

伊藤 悟（京都文教大学日本学術振興会特別研究員）

平田 晶子（京都文教大学日本学術振興会特別研究員）

対談者：

長澤 明子（ナータリラータイカルチャーセンター主宰）

松本 公博（カテリーナ古楽器研究所所長）

演奏協力：

松本 照（カテリーナ古楽器研究所）

イサラー・ヤナターン（愛知大学非常勤講師）



タイ社会も近年その変化が激しく、例えば掛け合い歌専門家モーラムは音楽産業にとりこまれて現代的な変化をとげ、ひょうたん笛と機織の掛け合いや、稲魂を呼ぶ竹楽器の音も過去のものになりつつあります。これらを踏まえ、2名の対談者から報告とコメントをいただきます。長澤明子氏からタイ古典音楽や竹楽器アンカ alun などを紹介していただきつつコメントをいただき、大分で有機農業を営みつつ中世ヨーロッパの古楽器製作を行う松本公博氏に、自然・生活・音をテーマとした報告とコメントをいただきます。これらの報告とディスカッションを通じて、自然の音、自然楽器の音に耳をすますことから自然と人間のつながりを思い起こし、音に注目することから、現代社会を見なおす糸口が見出してみたいと思います。



「コンポジウム」とは、シンポジウムとコンサートを統合したものであり、深尾葉子氏(大阪大学)が考案した形式に、安富歩氏(東京大学)が提案した造語です。学術と音楽との開かれた統合を目指して命名されました。

シンポジスト



馬場 雄司
(京都文教大学 総合社会学部 教授)

「竹と稲魂のハーモニー：タイ北部ルワの竹楽器ピ」



伊藤 悟
(京都文教大学 日本学術振興会 特別研究員)

「楽器の旋律と仕事の音によるコミュニケーション
－ 徳宏タイ族のひょうたん笛と織機」



平田 晶子
(京都文教大学 日本学術振興会 特別研究員)

「神話にみる人間と自然との共生－東北タイ・ラオス、
掛け合い歌の専門家モーラムの伴奏楽器ケーン（笙）」

対談者



長澤 明子
(ナータリラータイカルチャーセンター 主宰)

「タイの古典音楽－口頭伝承－」



松本 公博
(カテリーナ古楽器研究所 所長)

「音楽における自然体験」

演奏協力



松本 照
(カテリーナ古楽器研究所)



イサーラ・ヤナターン
(愛知大学 非常勤講師)

会場：安楽寺フリースペース椀（もみじ）

京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町 21

京都駅から：市バス 5 号系統「岩倉操車場」ゆき 「真如堂前」下車

四条河原町から：市バス 203 号系統「祇園・錦林車庫」ゆき 「真如堂前」下車

「真如堂前」バス停から徒歩約 10 分

哲学の道より一本山際の、通称「隠れ道」に面しています。

法然院の南側。石段の上に見える山門が目印です。

